

中国古典に由来する日中熟語や諺の相違点について (6)

著者	凌 志偉
出版者	法政大学教養部
雑誌名	法政大学教養部紀要．外国語学・外国文学編
巻	119
ページ	61-77
発行年	2002-02
URL	http://hdl.handle.net/10114/3998

中国古典に由来する日中熟語や 諺の相違点について (6)

凌 志 偉

○無為（むい）にして化（か）す

故聖人云，我無為而民自化，我好靜而民自正。

老子・道德經・五十七章（日・中）

古之畜天下者，無欲而天下足，無為而萬物化，淵靜而百姓定。

莊子・天地（日・中）

李耳無為自化，清靜自正。

史記・老子韓非列傳（日・中）

中：无为自化

○向かうところ敵なし

因天之時，就地之勢，依人之利，則所向者無敵，所擊者萬全矣。

諸葛亮・心書（日）

峻狡黠有智力，其徒黨驍勇，所向無敵。

晉書・蘇峻傳（中）

中：所向无敌。所向披靡。

○紫の朱（あけ）を奪う

子曰，惡紫之奪朱也，惡鄭聲之亂雅樂也，惡利口之覆邦家者。

論語・陽貨（日）

中：邪恶胜过正义，异端冒充真理。

注：上記から派出した熟語として「惡紫奪朱」があります。

○目に一丁字（いっていじ）なし

今天下無事，汝輩挽得兩石力弓，不如識一丁字。

舊唐書・張弘靖傳（中）

中：目不识丁。

○目を奪う

林有驚心鳥，園多奪目花。

南朝梁聞人倩〈春日〉詩（中）

中：夺目。

○命（めい）を革（あらた）む

天地革而四時成，湯武革命，順乎天而應乎人。

易・革（中）

中：革命

○明珠（めいしゅ）兼承（けんじょう）も未だ一言（いちげん）に若（し）かず

王答曰，覽所陳。知成我者，卿也。明珠兼承，未若一言。

新唐書・薛収傳（日・中）

中：明珠兼承，未若一言。

○明珠（めいしゅ）を闇（やみ）に投ず

臣聞明月之珠，夜光之璧，以闇投人於道路，人無不按劍相眄者。何則？無因而至前也。

史記・魯仲連離陽列傳（日・中）

中：（高価な品でも贈り方がよくなければ、人は喜ぶよりもかえって怪しむという意味から）贈送貴重礼品時，如送礼途径不正，反而会引起怀疑。

注：中国語の“明珠暗投”は（1）有能な人物が埋もれている。（2）立派な人間が誤って邪道に入る。という意味です。

○面皮（めんび）が厚い

徒有八尺圍，腹無一寸腸。面皮如許厚，受打未詎央。

南史・下彬列傳（日）

中：臉皮厚。面皮厚。

- 綿綿（めんめん）を絶たずんば蔓蔓（まんまん）を若何（いかん）せん
周書曰、綿綿不絶、綬綬若何。毫毛不拔、將成斧柯。前慮不定、後有大患、
將奈之何。

戰國策・魏策・襄王（日）

縣縣不絶、蔓蔓若何。豪末不掇、將成斧柯。

逸周書・和寤（中）

中：綿綿不絶、蔓蔓若何。

- 盲龜（もうき）の浮木（ふぼく）

生世爲人難値佛世亦難、猶如大海中盲龜遇浮孔。

北本涅槃經（日）

中：盲龜遇浮木。（喻机会千載難逢）

- 孟母（もうぼ）三遷（さんせん）の教え

其舍近墓。孟子之少也，嬉遊。爲墓間之事，踴躍築埋。孟母曰，此非吾所以居處子也。乃去。舍市傍。其嬉戲爲買人銜賣之事。孟母又曰，此非吾所以居處子也。復徙，舍學宮之傍。其嬉遊乃設俎豆揖讓進退。孟母曰，真可以居吾子矣。遂居之。

漢・劉向・列女傳・鄒孟軻母（日・中）

中：孟母三遷。孟母擇邻。

- 孟母（もうぼ）断機（だんき）の教え

孟子之少也，既學而歸，孟母方績，問曰，學何所至矣。孟子曰，自若也。孟母以刀断其織。孟子懼而問其故。孟母曰，子之廢學，若吾断斯織也。

漢・劉向・列女傳・鄒孟軻母（日・中）

中：断織劝學。

- 沐猴（もっこう）にして冠す

項王見秦宮室，皆以燒殘破，又心懷思欲東歸。曰，富貴不歸故郷，如衣赭夜行，誰知之者。說者曰，人言楚人沐猴而冠矣。果然。

史記・項羽本紀（日・中）

中：沐猴而冠。

○股（もも）を割（さ）いて腹に充（み）たす

若損百姓以奉其身，猶割股以啖腹，腹飽而身斃。

貞觀政要・君道（日）

中：割股以啖腹，腹飽而身斃。自私透頂反害己。

注：中国語の古典において、“割股”は普通股を割（さ）いて、君主や親に食べさせる行為を意味し、それは“忠”や“孝”を表す行動と解釈されます。

○門前（もんぜん）市（いち）を成す

令初下，羣臣進諫，門庭若市。數月之後，時時而間進。

戰國策・齊一（中）

中：門庭若市

○門前（もんぜん）雀羅（じゃくら）を張る

始翟公爲廷尉，賓客闐門。及廢，門外可設雀羅。

史記・汲鄭列傳論（日・中）

中：門可羅雀。門堪羅雀。

○野（や）に遺賢（いけん）無し

帝曰，俞。允若茲，嘉言罔攸伏，野無遺賢，萬邦咸寧。

尚書・大禹謨（日・中）

中：野无遺賢。

○柳の葉を百度（ももたび）中（あ）つ

楚有養由基者，善射者也。去柳葉百步而射之，百發而百中之。左右觀者數千人，皆曰善射。

史記・周本紀（日・中）

中：百步穿楊。

○柳は緑（みどり）花は紅（くれない）

柳綠花紅真面目。

蘇軾（日）

秋至山寒水冷，春來柳綠花紅。一點動隨萬變，江村煙雨濛濛。

五燈會元・龍華球禪師法嗣・酒仙遇仙禪師（中）

中：（1）（人工の加わっていないさまという意味から）了无斧凿。

（2）（世はさまざまであるという意味から）世事纷纭。

（3）（春の景色の美しさの形容という意味から）柳綠花紅。

注：中国語の“柳綠花紅”という成語は（3）の意味しかない。

○山を鑄（い）海を煮る

乃益驕溢，即山鑄錢，煮海水爲鹽，誘天下亡人，謀作亂。

史記・吳王濞列傳（日）

吳有豫章郡銅山，濞則招致天下亡命者盜鑄錢，煮海水爲鹽，以故無賦，國用富饒。

史記・吳王濞列傳（中）

中：鑄山煮海。

○病（やまい）膏肓（こうこう）に入（い）る

公疾病，求醫於秦。秦伯使醫緩爲之。未至，公夢疾爲二豎子，曰，彼良醫也，懼傷我，焉逃之。其一日，居肓之上，膏之下，若我何。醫至，疾不可爲也，在肓之上，膏之下，攻之不可，達之不及，藥不至焉，不可爲也。公曰，良醫也。厚爲之禮而歸之。

左傳・成公十年（日・中）

中：病入膏肓。

○病（やまい）は口より入り禍（わざわい）は口より出ず

病從口入，禍從口出。

晉・傅玄〈口銘〉（日・中）

中：病从口入，祸从口出。

○勇將（ゆうしょう）の下（もと）に弱卒（じゃくそつ）無し

俗語云，強將下，無弱兵。真可信。

宋・蘇軾題跋・題連公壁（中）

中：強將手下无弱兵。

○有知（ゆうち）無知三十里

魏武亦記之，與脩同，乃歎曰，我才不及卿，乃覺三十里。

世說新語・捷悟（日・中）

中：有智无智校三十里。

○夕（ゆうべ）の陽（ひ）に子孫を愛す

可憐八九十，幽墮雙眸昏。朝露貪名利，夕陽憂子孫。

白居易・秦中吟・不致仕（日・中）

中：夕陽忧子孫

○幽明相（あい）隔（へだ）つ

平生每相夢，不省兩相知。況乃幽明隔，夢魂徒爾爲。

元稹〈江陵三夢〉詩（中）

中：幽明永隔。幽明相隔。

○幽明界（さかい）を異（こと）にする

幽明路異，人鬼道殊，今者人事相接，亦萬代一時，非偶然也。

〈太平廣記〉卷四八九引唐無名氏〈冥音錄〉（中）

中：幽明路異。

○雪は豊年の瑞（しるし）

上天同雲，雨雪雰雰。

詩經・小雅・信南山

豊年之冬，必有積雪。

毛詩注（日）

今瑞雪頻降，來年必豊。

韓愈〈御史台上論天旱人飢狀〉（中）

中：瑞雪兆豊年。雪兆豊年。

○行くに徑（こみち）に由（よ）らず

子曰、女得人焉耳乎。曰、有澹臺滅明者、行不由徑、非公事、未嘗至於偃之室也。

論語：雍也（日・中）

中：行不由徑。

○指を折る

屈指計亮糧不至十日。

三國志・魏志・張郃傳（中）

中：（指を一本ずつ折り曲げながら数えるという意味から）屈指（算米）。

今文儒之盛、其書屈指可數者、無三四人、非皆不能、蓋忽不爲爾。

歐陽修・古今録跋尾・唐安公美政頌（中）

中：（多くのものの中で指を折って数えられるほどにすぐれているという意味から）屈指可數。

○夜（よ）を日に継ぐ

周公思兼三王、以施四事、其有不合者、仰而思之、夜以繼日。

孟子・離婁下（日・中）

中：夜以繼日。

○俑（よう）を作る

仲尼曰、始作俑者、其無後乎。爲其象人而用之也。

孟子・梁惠王上（日・中）

中：始作俑者。

○様（よう）によりて葫蘆（ころ）を画（えが）く

（陶）穀不能平、乃俾其黨與、因事薦引、以爲久在詞禁、宣力實多、亦以微伺上旨。太祖笑曰、頗聞翰林草制、皆檢前人舊本、改換詞語、此乃俗所謂依樣畫葫蘆耳、何宣力之有。穀聞之、乃作詩書於玉堂之壁。曰、官職須由生處有、才能不管用時無。堪笑翰林陶學士、年年依樣畫葫蘆。

宋・魏泰・東軒筆錄卷一（日・中）

中：依样画葫芦。依样葫芦。依葫芦画瓢。

○陽氣（ようき）発するところ金石また透（とお）る

陽氣發處金石亦透，精神一到何事不成。

朱子語錄・學二・總論爲學之法（日）

中：阳气发处金石亦透。

○養虎（ようこ）の患（うれ）え

漢欲西歸，張良、陳平說曰，漢有天下太半，而諸侯皆附之，楚兵罷食盡，此天亡楚之時也，不如因其機而遂取之。今釋弗擊，此所謂養虎自遺患也。漢王聽之。

史記・項羽本紀（日・中）

中：养虎自遺患。养虎遺患。养虎貽患。

○羊頭（ようとう）を掲（かか）げて狗肉（くにく）を売る

君使服之於内，而禁之於外，猶懸牛首於門，而賣馬肉於内也。

晏子六靈公好婦人（日・中）

從此卸却干戈，隨分著衣喫飯，二十年来坐曲錄床，懸羊頭，賣狗肉，知它有甚憑據。

續景德傳燈錄三一曇華禪師（中）

中：挂羊头卖狗肉。悬羊头卖狗肉。

○要領（ようりょう）を得ない

竊從月氏至大夏，竟不能得月氏要領。

漢書・張騫傳（日）

史記・大宛列傳（中）

中：不得要領。

○葦（よし）の髄（ずい）（＝管（くだ））から天井（てんじょう）を覗（のぞ）く

是直用管窺天，用錐指地也，不亦小乎。

莊子・秋水（中）

中：以管窺天。

○涎（よだれ）を垂らす（流す）

- (1) （空腹時に飲食物を見て非常に食欲を感じるさまという意味から）垂涎。
入門，群犬垂涎，揚尾皆來。

唐・柳宗元・三戒・臨江之麋（中）

- (2) （非常にほしがるさまや非常にうらやましがるさまという意味から）垂涎。
自春秋時楚莊王已問其輕重大小，而戰國之際，秦與齊楚皆欲之，周人惴惴焉，視三虎之垂涎而睨己也。

蘇軾〈漢鼎銘〉引（中）

○余桃（よとう）の罪

昔者彌子瑕有寵於衛君。衛國之法，竊駕君車者罪別。彌子瑕母病，人間往夜告彌子。彌子矯駕君車以出。君聞而賢之曰，孝哉，爲母之故，忘其刑罪。異日與君遊於果園，食桃而甘，不盡，以其半啗君。君曰，愛我哉。忘其口味以啗寡人。及彌子色衰愛弛，得罪於君。君曰，是固嘗矯駕吾車，又嘗啗我以餘余桃。故彌子之行未變於初也。而以前之所以見賢而後獲罪者，愛憎之變也。故有愛於主，則智當而加親。有憎於主，則智不當見罪而加疏。

韓非子・說難（日・中）

中：餘桃啗君。

○由（よ）らしむべし、知らしむべからず

民可使由之，不可使知之。

論語・泰伯（日・中）

中：民可使由之，不可使知之。

○洛陽の紙価（しか）を高める

復欲賦三都，會妹芬入宮，移家京師。乃詣著作郎張載。訪岷邛之事，遂構思十年。門庭落溷，皆著筆紙，遇得一句，即便疏之。自以所見不博，求爲秘書郎。乃賦成，時人未之重。思自以其作，不謝班張，恐以人廢言。安定皇甫謐有高譽，思造而示之。謐稱善，爲其賦序。張載爲注魏都，劉逵注吳蜀，而序之曰……自是之後，盛重於時，文多不載。司空張華見而歎曰，班張之流也。使讀之者盡而有餘，久而更新。於是豪貴之家，競相傳寫，洛陽爲之紙貴。

晉書・左思傳（日・中）

中：洛陽紙貴。

○落花（らつか）情（じょう）あれども流水（りゅうすい）意（い）なし
落花不語空辭樹，流水無情自入池。

白居易・過元家履信宅（日）

落花有意隨流水，流水無情戀落花。

續傳燈錄・温州龍翔竹庵士珪禪師（中）

中：落花有意，流水無情。

○李下（りか）に冠（かんむり）を正さず

君子防未然，不處嫌疑間。瓜田不納履，李下不正冠。

樂府詩集・相和歌辭七・君子行（日・中）

中：李下瓜田。

○立錐（りっすい）の余地もない

夫無欲者，其視爲天子也與爲與隸同，其視有天下也與無立錐之地同。

呂氏春秋・離俗覽・爲欲（日）

今秦失德棄義，侵伐諸侯社稷，滅六國之後，使無立錐之地。

史記・留侯世家（中）

中：（人がぎっしりつまっていて、少しのすきまもないという意味から）挤满了人，连插进脚的地方都没有。

注：中国語の“无立锥之地”という熟語は出典にあるように僅かばかりの場所という意味です。

○柳眉（りゅうび）を逆立てる

只見那婆惜柳眉踢豎，星眼圓睜，說道，老娘拿是拿了，只是不還你。

水滸傳・第二一回（中）

中：柳眉倒豎。

○竜門（りゅうもん）の滝登り

河津一名龍門，巨靈迹猶在，去長安九百里，江海大魚，泊集門下數千，不

得上，上則爲龍。故云，曝鯉龍門。

辛氏三秦記（日）

膺獨持風裁，以聲名自高。士有被其容接者，名爲登龍門。

李賢注：以魚爲喻也。龍門，河水所下之口，在今絳州龍門縣。辛氏三秦記曰，河津一名龍門，水險不通，魚鱉之屬莫能上，上則爲龍也。

後漢書・李膺傳（中）

中：登龍門。

○凌雲（りょううん）の志（こころざし）

往時武帝好神仙，相如上大人賦欲以風。帝反縹縹有陵（凌）雲之志。

前漢書・揚雄傳（中）

中：（超然として世外にありたいという望みという意味から）超然物外之志。

注：中国語の“凌云之志”は高邁（こうまい）な志という意味です。

○良禽（りょうきん）は木を択（えら）んで棲（す）む

鳥則擇木，木豈能擇鳥。

左傳・哀公十一年（日・中）

馬援不受井蛙囚，范增已被重瞳誤。良禽擇木乃下棲，不用漂流歎遲暮。

元・張憲・行路難（日・中）

中：良禽擇木。

○燎原（りょうげん）の火

若火之燎于原，不可嚮邇，其猶可撲滅。

尚書・盤庚上（中）

中：燎原烈火。

○兩虎（りょうこ）相鬪（あいたたか）えば勢（いきおい）俱（とも）に生
ず

強秦之所以不敢加兵於趙者，徒以吾兩人在也。今兩虎共鬪，其勢不俱生。

吾所以爲此者，以先國家之急，而後私讎也。

史記・藺相如傳（日・中）

中：兩虎相斗，其勢不俱生。

○良賈（りょうこ）は深く蔵（ぞう）して虚（むな）しきがごとし

吾聞之，良賈深藏若虚，君子盛德，容貌若愚。

史記・老子韓非傳（日・中）

中：良賈深藏若虚。

○梁上（りょうじょう）の君子（くんし）

時歲荒民儉，有盜夜入其室，止於梁上。寔陰見，乃起自整拂，呼命子孫，正色訓之曰，夫人不可以不自勉。不善之人未必本惡，習以性成，遂至於此。梁上君子者是矣。盜大驚，自投於地，稽顙歸罪。

後漢書・陳寔傳（日・中）

中：(1)（盜賊という意味から）梁上君子。

(2)（転じて、ねずみの称という意味から）老鼠。

注：中国語には（2）の用法はない。

○梁塵（りょうじん）を動かす

漢興以來，善歌者魯人虞公，發聲清哀，蓋動梁塵。

〈太平御覽〉卷五七二引漢劉向〈別錄〉（日・中）

中：梁塵飛。梁塵踊躍。

○兩端（りょうたん）を叩（たた）く

子曰，我有知乎哉。無知也。有鄙夫問於我，空空如也。我叩其兩端而竭焉。

論語・子罕（日）

中：盤問事物的始終。

○遼東（りょうとう）の豕（いのこ）

往時遼東有豕，生子白頭，異而獻之，行至河東，見羣豕皆白，懷慙而還。若以子之功論於朝廷，則爲遼東豕也。

後漢書・朱浮傳（日・中）

中：辽东豕。辽东白豕。

○良藥（りょうやく）口に苦（にが）し

良藥苦於口，而利於病，忠言逆於耳，而利於行。

孔子家語・六本（日）

夫良藥苦於口，而智者勸而飲之，知其入而已已疾也。忠言拂於耳，而明主聽之，知其可以致功也。

韓非子・外儲說左上（中）

中：良薬苦口。苦口良薬。

○兩雄（りょうゆう）並び立たず

且兩雄不俱立，楚漢久相持不決。

史記・酈生陸賈列傳（日・中）

吾聞兩雄不俱立，兩賢不並世。

漢書・南粵傳（中）

中：兩雄不俱立。

○驪竜（りりょう）領下（がなか）の珠（たま）

夫千金之珠，必在九重之淵，而驪龍領下。

莊子・列禦寇（日・中）

中：驪龙珠，驪珠。

注：日本語の意味は“危険を冒さなければ得られないもののたとえ”ですが、中国語は貴重な人または物という意味です。

○離婁（りろう）の明（めい）

離婁之明，公孫子之巧，不以規矩，不能成方圓。

孟子・離婁上（日・中）

中：离娄之明。

○林間（りんかん）に酒を煖（あたた）めて紅葉（こうよう）を焼（た）く

林間暖酒焼紅葉，石上題詩掃綠苔。

白居易一送王十八歸山寄題仙遊寺詩（日・中）

中：林間暖酒焼红叶。

○綸言（りんげん）汗（あせ）の如し

号令如汗，汗出而不反者也，今出善令，未能踰時而反，是反汗也。

漢書・劉向傳（日・中）

王言如絲，其出如綸。王言如綸，其出如紉。

禮記・緇衣（日・中）

中：綸言如汗。

○臨濟（りんざい）の喝（かつ）徳山（とくざん）の棒

上堂，僧問，如何是佛法大意？師豎起拂子，僧便喝，師便打。又僧問，如何是佛法大意？師亦豎拂子，僧便喝，師亦喝。僧擬議，師便打。

五燈會元・黃檗運禪師法嗣・臨濟義玄禪師（日・中）

中：当头棒喝的施教方法。

注：中国語の“当头棒喝”という成語は普通痛撃を与えて、目ざめさせるという意味で使われます。

○壘（るい）を摩（ま）する

許伯曰，吾聞致師者，御靡旌，摩壘而還。

左傳・宣公十二年（日・中）

中：(1)（敵陣に迫るという意味から）摩壘。

(2)（技量や地位がほとんど同じ程度に達するという意味から）不分伯仲。

注：中国語の“摩壘”には(2)の意味はない。

○類（るい）がない

子曰，有教無類。

論語・衛靈公篇（日）

中：（比べるものがない。きわだつてすぐれているという意味から）无与伦比。

○類（るい）を以て集まる

方以類聚，物以羣分。

易・繫辭上（日・中）

中：物以類聚。

○連城（れんじょう）の壁（たま）

趙惠文王時，得楚和氏璧。秦昭王聞之，使用遣趙王書，願以十五城請易璧。

史記・廉頗藺相如列傳（日・中）

中：连城璧。

○隴（ろう）を得て蜀（しょく）を望む

勅彭書曰，兩城若下，便可將兵南擊蜀虜。人苦不知足，既平隴，復望蜀。

後漢書・岑彭傳（日・中）

中：得隴望蜀。

○蠟（ろう）を嚙（か）むよう

我無欲心，應汝行事，於橫陳時，味如嚼。

楞嚴經・卷八（日・中）

中：味同嚼蜡。

○老驥（ろうき）櫪（れき）に伏すとも志（こころざし）千里に在り

老驥伏櫪，志在千里。烈士暮年，壯心不已。

曹操・〈步出夏門行〉詩（日・中）

中：老驥伏櫪，志在千里。

○勞（ろう）して功（こう）なし

今薪行周于魯，是猶推舟于陸也，勞而無功，身必有殃。

莊子・天運（日・中）

中：勞而无功。

○老馬（ろうば）の智（ち）

管仲，隰朋從於桓公而伐孤竹，春往冬返，迷惑失道。管仲曰，老馬之智可用也。乃放老馬而隨之，遂得道。

韓非子・說林上（日・中）

中：老马之智。

注：中国語の成語としては、この故事から“老马识途”しかなく、原文にある“老马之智”はあまり使われない。

○廬山（ろざん）の真面目（しんめんもく）

不識廬山真面目，只緣身在此山中。

蘇軾・題西林壁（日・中）

中：廬山真面目。廬山面目。

○矮人（わいじん）の観場（かんじょう）

今人只見魯直說好，便都說好，如矮人看場耳。

唐音癸籤一卷六（日）

子觀宋景文近體，無一字無來歷，而對仗精確，非讀萬卷者不能，迥非南渡以後所及。今人耳食，譽者毀者，皆矮人觀場，未之或知也。

清・王士禛・香祖筆記・卷十（中）

中：矮人现场。矮子看戏。

○災いを転じて福となす

智者之舉事也，轉禍而爲福，因敗而成功者也。

戰國策・燕策・昭王（日）

聖人之制事也，轉禍而爲福，因敗而爲功。

戰國策・燕策一（中）

中：转祸为福。转灾为福。

○和して同ぜず

子曰，君子和而不同，小人同而不和。

論語・子路（日・中）

中：和而不同。

○渡りに船

如清涼池，能滿一切諸渴乏者，如寒者得火，如裸者得衣，如商人得主，如子得母，如渡得船，如病得醫，如闇得燈，如貧得寶，如民得王，如買客得海，如炬除闇。

法華經・藥王品（日）

中：正中下怀。

今回の研究には十数年の歳月をかけたが、その間にインターネットが現れ、検索をだいぶ容易にした。それでも日本語の文献では日本国語大辞典（小学館、1972 年版）、中国語の文献では 90 年代に完成された漢語大辞典に大変お世話になった。ここに改めて御礼を述べたい。こういった道具がなければ、本稿はなかなか書けなかったと思う。

今通読して見ると、日本語になった熟語や諺の出典はほとんど 100 年ぐらい前迄良く読まれていた古典ばかりである。経文から来ているものもあるが、それもかなり人口に膾炙していたであろう。そういう所からも、良く読まれていなければ、熟語や諺にはなれないことが分かる。

日本語の熟語や諺になったものにはかなり出典と違うものがあり、筆者の非力でその出典を調べることでできなかったものが二三ある。いつかその補足をしたい。

なお、今回の原稿は 1999 年度の法政大学研究助成金を受けたことを付記しておく。

（中国語学・第一教養部教授）